

## トモエガモ *Anas formosa* Georgi

### 【選定理由】

東アジア特産の希少種で、河川や内陸の池沼に飛来して越冬する。国内では日本海側に多い傾向があるが、愛知県は太平洋側で最も飛来数の多い県であったと思われる。かつて尾張地域の河川下流域や河口部では、年によって数千羽から数万羽の大群が見られたこともある。その後徐々に減少して、2000年代の半ば以降は県内全域で100羽以上の個体を確認することも困難となっている。

### 【形態】

全長40cmの小型のカモ。雄は顔に黄白色と光沢のある緑色からなる巴型の模様があり、側胸に白い縦線がある。肩羽は細長く伸び、脇にまで達する。雌は、全身が灰褐色で嘴基部に丸い斑があり、喉から頬にかけて白色部がある。



愛知県岡崎市, 2013年1月6日, 浅井利明 撮影

### 【分布の概要】

#### 【県内の分布】

冬鳥として主に河川の下流部、平野部や丘陵部の池沼などに生息するが、山間部の川や海上でもみられることもある。

#### 【国内の分布】

北海道、本州、四国、九州、対馬、壱岐、八丈島、小笠原諸島父島などでも記録があるが、日本海側で多く、そのほかの地域では少ない傾向がある。

#### 【世界の分布】

東アジア特産種で、シベリア極東部で繁殖し、中国東部、朝鮮半島、日本で越冬する。

### 【生息地の環境／生態的特性】

主に大きな河川の下流部や池沼に生息するが、少数が山間部の河川でオンドリの群れに混じることもある。主に植物食でドングリや草の種子を好むが、水棲の小動物なども食べる。飛来数が多い年は大規模な群れになる傾向があるが、大規模な越冬群の渡来地は局所的である。警戒心が強く捕食者や人による攪乱の影響を受けやすいことから、同一シーズンの中でも個体数は安定していない。

### 【現在の生息状況／減少の要因】

渡来数の年による変動が大きな種であり、かつて多く飛来した年には木曾川下流域で2~3万羽、愛知池で5千羽という記録もあったが、飛来数の多かった尾張地域でも、近年は100羽の群れを見ることが困難になっている。県内各地の小規模飛来地でも、年による飛来頻度や飛来数にばらつきはあるものの、県内の総飛来数は減少傾向が続いている。減少の要因は明らかでないが、主な繁殖地であるシベリアや国内の主要な越冬地でも、個体数の減少が報告されている。

### 【保全上の留意点】

本種に限らず警戒心の強いカモ類や、その他の水鳥の生息環境を保全するためには、河川であれば主な生息範囲である左右どちらかの岸边、池沼であれば主な生息部分を中心に池沼の岸边の半分近くを立ち入り禁止にした形の設計をするべきである。水鳥をはじめ野生生物の多くは常に人の視線を警戒しているので、川の兩岸や池沼の全周から視線を感じる場合は、安心して生息することができない。近年は河川の管理や公園の池などを整備する場合、市民の利用と共に野生生物との共存を目的とする施策も多くなっているが、より多くの野生生物を誘致するためには、野生生物の視点を考慮した施策を実施することが重要である。

### 【関連文献】

黒田長久, 1984. 黒田長久編, 決定版 生物大図鑑 鳥類, pp.68-69. 世界文化社, 東京.

(高橋伸夫)